第4回　日本の人口構成:性別と年齢

1. 人口の性比

性比とは、女性 100 人にたいする男性の割合。男性のほうがやや多く生まれるが、女性のほうが長生きするため、性比は 100 をやや下回ることが多い。

・1936 年まで、日本の人口の性比は 100 ～ 101 であった。
・1945 年に 89 にまで低下したが、これは戦争の影響により、男性の死亡数が多かったためである。
・その後、96 ～ 97 で推移。一度亡くなった男性は生き返らないため、戦争世代ではつねに女性が多い状態が続いた。
・1990 年以降、性比が低下し始め、2005 年の性比は 95 である。人口構成の高齢化・長寿化に男女差があるために、もともと少なかった男性が早くなくなり、もともと多かった女性が生き残っているため。

2. 年齢別の性比

2005 年の国勢調査の年齢 5 歳階級別集計から年齢別の性比を計算すると、40 歳代までは男性が多いが、50 歳代からは女性が多くなり、70 歳以上になると、極端に女性が多くなることがわかる。

	男	女	性比
0-4 歳	2,854,502	2,723,585	105
5-9 歳	3,036,503	2,891,992	105
10-14 歳	3,080,678	2,933,974	105
15-19 歳	3,373,430	3,194,950	106
20-24 歳	3,754,822	3,595,776	104
25-29 歳	4,198,551	4,081,498	103
30-34 歳	4,933,265	4,821,592	102
35-39 歳	4,402,787	4,332,994	102
40-44 歳	4,065,470	4,015,126	101
45-49 歳	3,867,500	3,858,361	100
50-54 歳	4,383,240	4,413,259	99
55-59 歳	5,077,369	5,177,795	98
60-64 歳	4,154,529	4,390,100	95
65-69 歳	3,545,006	3,887,604	91
70-74 歳	3,039,743	3,597,754	84
75-79 歳	2,256,317	3,006,484	75
80-84 歳	1,222,635	2,189,758	56
85-89 歳	555,126	1,294,134	43
90 歳以上	255,772	821,672	31
総数	62,348,977	65,419,017	95

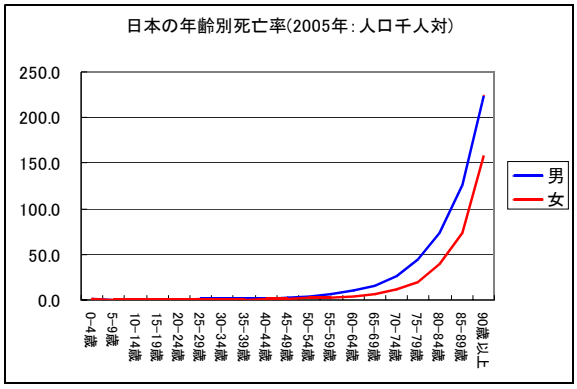
●多産多死の農業社会では男性が多く、少産少死・高齢社会の先進社会では女性が多い。

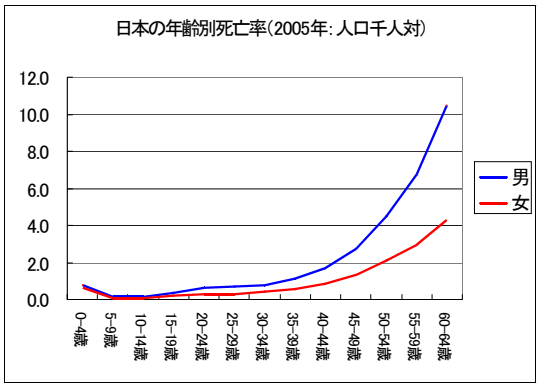
国際比較（2004 年）

中国	105
韓国	101
シンガポール	101
インド	106
ブラジル	97
アメリカ合衆国	97
フランス	95
ドイツ	96
アイスランド	101
イタリア	94
ナイジェリア	102（ただし、ほとんどのアフリカ諸国は 100 未満）
南アフリカ	95

・現在、多くの国で、性比は 100 未満になっている。
・男の子に価値をおく東アジアやインドでは、性比が 100 を超えている。

3. 男女別年齢別死亡率





資料）年齢別死亡数は、厚生労働省平成 17 年度人口動態統計。年齢別人口は、平成 17 年国勢調査。

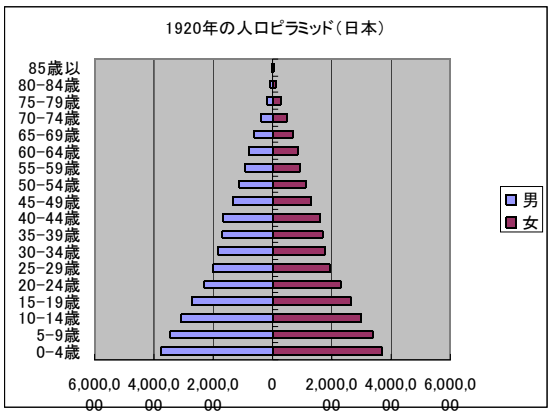
・幼児期の死亡率はやや高いが、子どもの死亡率は著しく低い。
・10 代後半から、男女差が生まれ、男性の死亡率は女性の死亡率の約 2 倍になる。
・30 歳代後半から、加齢とともに死亡率は急速に増大する。
・70 歳代前半でも、1 年間に死ぬ確率は、男性で 2.6 %、女性で 1.1 %。

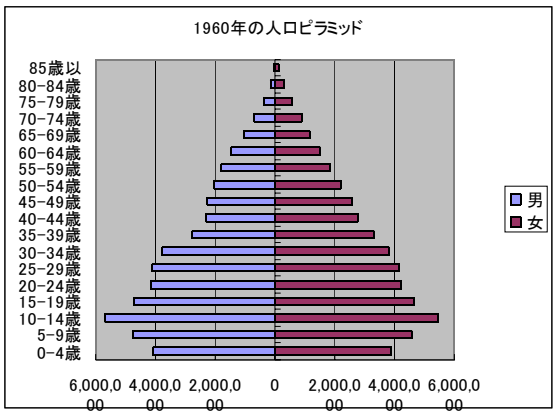
4. 年齢構成と人口ピラミッド

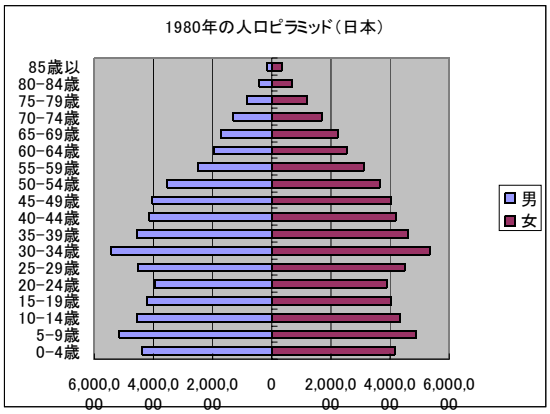
性別・年齢別人口をグラフに表したものを年齢・性別ピラミッド（人口ピラミッド）という。

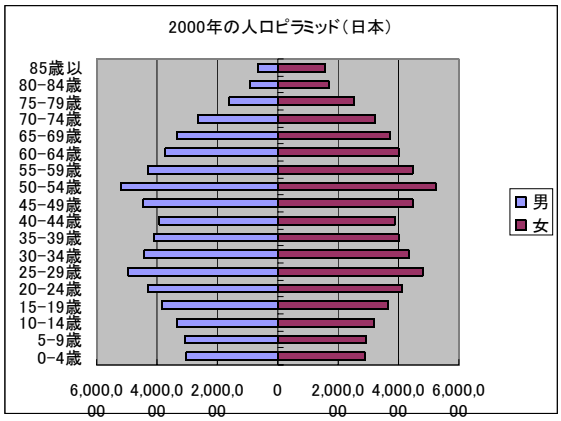
毎年、同じ数だけ子どもが生まれ、国内外の移動が無視できるとすれば、年齢が上がるにつれて、死亡した人の数だけ年齢別人口が減少していくので、ピラミッド型になる。

多産多死型の社会では、ピラミッド型になるが、少産少死社会では、釣り鐘型になり、少子化・人口減少局面では、高齢者の多い逆ピラミッド型になる。







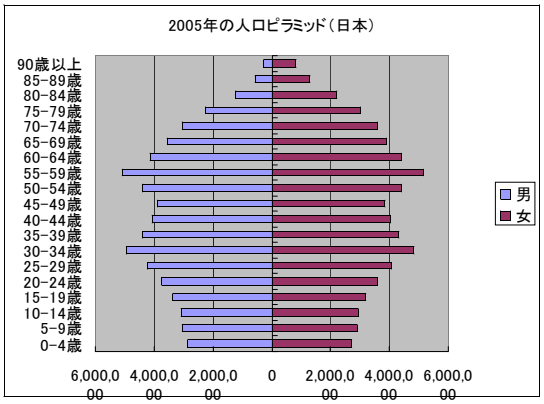


・1920 年の日本：典型的なピラミッド型。

・1960 年の日本：40 歳以上の男性が少ない。10-14 歳が異常に多い。

・1980 年の日本：60 歳以上の男性が少ない。30-34 歳が異常に多い。5-9 歳もやや多い。

・2000 年の日本：80 歳以上の男性が少ない。50-54 歳が異常に多い。25-29 歳もやや多い。15 歳未満の人口は、各階級とも 400 万人を下回っている。



・2005 年の日本：20 歳未満人口は、各年齢階級とも、400 万人を下回っている。「提灯」型に近づいている。

5. 人口転換とピラミッド

農業社会（多産多死型人口停滞社会）

出生率が高い→底辺が広い。

死亡率・乳児死亡率が高い→頂点が低い。性比は 100 を超える？

工業化社会（死亡率の低下による人口成長社会）

出生率が高い→底辺が広い。

死亡率・乳児死亡率は低下→頂点が高くなっていく。性比は 100 を下回る。

先進工業社会（出生率の低下による人口低成長社会）

出生率が低下→底辺が細くなっていく。

死亡率・乳児死亡率が低い→頂点は上に伸び続け、平らになっていく。

結果として、釣り鐘型になっていく。性比は 100 を下回る。

脱工業化社会（少産少死型人口成熟社会）

出生率がさらに低下→底辺が細くなっている。

乳児死亡率は低位安定だが、人口高齢化により粗死亡率はやや上昇→頂点が平らになり、身が太る。

結果として、提灯型になっていく。性比はさらに低下。

脱工業社会（少子高齢型人口減少社会）

出生率が低い→底辺が細い。

乳児死亡率は低いが粗死亡率は人口高齢化によりやや高め→背が高く中高年層で太い。

結果として、逆ピラミッドに近くなる。性比は 95 前後。